

□ブラウザー

■Internet Explorer

- ・ 文書を印刷した場合、添付ファイルの表示に ActiveX を使用している環境では、添付ファイル領域はグレーで印刷されます。
- ・ ブラウザーのステータスバーに表示されるプログレスバーが、進み続ける場合があります。

■Microsoft Internet Explorer 6

- ・ UTF-8 で記述しているため、画面を切り替えると文字サイズが変わる場合があります。

■Microsoft Internet Explorer 7

- ・ 添付ファイルを自動で開く設定にしているのに自動で開かない、または自動で開いてもファイルをダウンロードできない場合があります。
回避策は以下のとおりとなります。
 1. ブラウザーのメニューバーから[ツール]→[インターネットオプション]を選択します。
 2. [セキュリティ]タブをクリックし、[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。
 3. [ダウンロード]グループにある[ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示]の設定で、[有効にする]を選択します。
 4. [OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。
- ・ Windows XP SP2 の環境で、Windows Internet Explorer 7 を使用してファイルをダウンロードできない場合があります。
Windows XP SP3 を適用するか、以下の手順で回避してください。
 1. [スタート]ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
 2. 「control international」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。
 3. [言語]タブをクリックし、[詳細]ボタンをクリックします。
 4. [詳細設定]タブをクリックし、[詳細なテキスト サービスをオフにする]チェックボックスをオンにして、[OK]ボタンを 2 回クリックします。

※右記のサイトからの抜粋。 <http://support.microsoft.com/kb/932823/ja>

■Microsoft Internet Explorer 8

- ・ [ツール]メニュー - [インターネットオプション] - [セキュリティ]タブの[信頼済みサイト]を選択し、[サイト]ボタンをクリックし、以下を設定してください。
 1. 本システムの Web サイトをゾーンに追加。
 2. 「保護モードを有効にする」をチェックしない。(デフォルトはチェックなし)

■Microsoft Internet Explorer 9(32bit)

- ・ [ツール]メニュー - [互換表示]を選択ください。

■Microsoft Windows7

- ・ 日本語 32bit 版以外では動作保証していません。

□固定書式

- ・ ActiveX を利用しない環境で固定書式を末尾に挿入した場合、1 行目が改行だけの場合、1 行目の改行がなくなります。

□簡易承認機能

- ・セキュリティマスター・キーワードマスターを利用しない環境で承認文書を登録する場合、セキュリティ設定の[上位の設定を使用]のチェックは外せません。
- ・セキュリティマスター・キーワードマスターを利用しない環境で、承認フォルダーの「キーワード設定」を変更した場合、承認文書のキーワードも承認フォルダーの設定に従って変更されます。

□フォーム文書

- ・フォームを作成する場合、部品の NAME 属性には日本語以外を指定してください。

□全文検索

- ・簡易検索、詳細検索画面で検索条件に全文検索を含む場合、検索結果をソートすることはできません。

□機密文書管理機能

- ・キー登録を行う場合に利用できる認証コードは、50 文字までです。51 文字以降は切り捨てられます。
- ・「1 文書 1 添付ファイルとする」がオンに設定されているフォルダーで機密文書の更新を行った場合、マイキャビネットブラウザで『GlobalDoc の「更新」ボタンを押下してください。』というダイアログが表示されます。[更新]ボタンをクリックする必要はありませんので、[OK]ボタンをクリックしてダイアログを閉じてください。

□サーバーツール

- ・削除対象のフォルダー、文書数が多いとき、ごみ箱文書削除ツールのデータベース処理でタイムアウトが発生する場合があります。タイムアウトが発生した場合は、データベースのタイムアウト時間を長く設定するか、-r、または-dr オプションで、削除対象が少なくなるように(※)指定してください。
※-r オプションを使用した場合は、「日数」に指定した値よりも大きな値を指定します。
-dr オプションを使用した場合は、指定した日付よりも過去の日付を指定します。
- ・システム環境設定の「更新前文書を表示」を「する」に設定している環境でサーバーツールを実行した結果、バックアップ階層を超えた場合には、指定した更新者ではなく、ツール実行者の「更新前文書」一覧に表示されます。

□ファイルのダウンロード

- ・添付ファイルの表示に ActiveX を使用していない環境の場合、保存ファイル名の初期値は「文書 ID. 拡張子」の形式になります。

□バージョンアップ

-
-
- WebDAV 機能を利用する環境の場合、1.00R06 以前に削除した添付ファイルが、バージョンアップ後、WebDAV 文書としてごみ箱に表示される可能性があります。
※このデータは、ごみ箱文書削除ツールで削除できます。
 - 1.00R06 以前に添付ファイルを削除して文書を移動していた場合、バージョンアップ後、削除した添付ファイルが復活する可能性があります。

GlobalFlow5 の制限事項

- セキュリティマスター編集画面で、セキュリティ簡易設定表示を利用して権限を設定する場合、ワークフローで使用する「書類監視権」は設定できません。
設定する場合は、セキュリティ詳細設定表示に変更して、設定してください。

文書の削除に関する注意事項

- 1.33R00 以前のバージョンの場合、文書管理権が設定されていない文書を文書管理機能管理者、システム管理者が削除すると、文書情報の一部がデータとして残ります。
-
-